

水源禅師法話集 39

(2014年10月12日 京都合宿)

2015年9月17日

一乗会



京都合宿所の庭

目次

水源禪師法話	1
他宗教では超えられない壁—神と自分との断絶—.....	1
法を求めたゆえのご褒美.....	5
目隠し状態にする支配体制.....	6
質疑応答	12
マハーニッバーナ・ダートゥ（大涅槃界）.....	12
天界の神々も待っていた大涅槃界.....	17
阿弥陀仏の浄土.....	17
宇宙的な数学の検証力をもつマヤ文明.....	19
大涅槃界の現象.....	20
観がたく悟りがたき法.....	22
パーチェカ仏陀とは.....	24
現代の瞑想の危機的状況.....	24

水源禪師法話

他宗教では超えられない壁—神と自分との断絶—

彫刻の先生方と楽しい時間を過ごして、今日もまた楽しくしたいと思ったのですが、最初はそう思っていたのです。ところが、何か今日は、何ていう方だろうか？ エクナット・イーシュワラン (Eknath Easwaran, 1910-1999) という、この方はヨギの方らしいですね。この方の手法はマントラ (真言) を唱えるわけです。マントラとは「南無観世音菩薩、南無観世音菩薩」、「南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏」、これがマントラ、全部マントラになります。というのは、この一つ一つの言葉に、一切の汚れがない音なのです。聖なるものであると。だから、そういうことを唱えることによって、どんどん浄化していきます。

だから、こういう手法で病気も治してしまいます。このマントラの唱え方によって、実は三つの筋肉と骨を使って発生させる場合には、不可思議な現象を起こして、このバイブレーションで病気まで治してしまうというのが、密教の奥伝です。心と、身・口・意というのは、口でしょう？ この口というのは使い方があって、この「喉 (のど)」の音と「顎 (あご)」とそれから「舌」、これ三つが共鳴して不思議な音を出し始めるわけ。外からのバイブレーションで病気を治してしまうと。

結局、瞑想はこういう瞑想法で、ただ坐る瞑想ではないわけ。ただ静かに、この人は「ラム、ラム、ラム、ラム、ラム」と。「ラマ、ラマ、ラマ、ラマ、ラマ」と。「ラマ」という神の名前を唱えるわけですね。私たちは「釈迦牟尼仏陀、釈迦牟尼仏陀」と、「偉い文殊菩薩、文殊菩薩」と。そういうことです。

私がバナラシに行ったとき、失礼ですけども、お猿の神様が出てきたのですよ。有名な、名前は何と言うのかな、ハヌマン様がパーッと出てきて、顔を見たら、まあ一、知性の塊、知性の方。人間よりは、この私たちの心よりもすごいのですよ。それからシバ神も出てくるし、バンバンバンバンと観えるわけです。だから、そういう力は否定できません。そういう現象を起こすから、すぐ飛び付きますけれども、この方 (エクナット・イーシュワラン氏) も聖書を読んでいるのですね。

フランシスコ・アッシジ (アッシジのフランチェスコ)、私たちにとってフランシスコ・アッシジが、やはり一番よく理解できます。カソリックのお坊さんの中で最高峰だと思います、修行の中で悟りを得た方は。問題はですね、やはり「愛」を説いています。愛の大海。それから悪世の世をいかにして渡っていくかと。最後に、この方は瞑想のところで、最後にずうっと浄化していけば、「天国に行って、永遠なる命を与えられる」ということなのです。天界に行って、天国の神の家に入れば、1杯のコップの水をもらいます。この1杯の水は、この世のものでは味わえない最高の飲み物で、飲んだ瞬間に体が光になって、それはすばらしいです。それで永遠にこれが続くわけです、ずうっと、そういう状態で、果てしなく。

ところが、神はアダムに「お前に永遠の命を与える」と、サンサーラ (輪廻)。繰り返し、

繰り返し、生きて、また生きていく。彼のテクニックは、その天国の家で終わってしまう。その先は観えないわけです。いずれにしろ、その「永遠」というのは「エタニティ」。「劫」というのは、1辺40里の大きな石の岩盤を100年に1回、天女がスーッと羽衣でなで、それが全部消えてしまうと。気の遠くなるような数字なわけです。西洋の「エタニティ」というのは、これまた時間があって、1.6 kmのダイヤモンドの山が100年に1回、小鳥が来て突っ突けば、全部、消えてなくなると。それが前・後エタニティがあります。「プリ・エタニティ」「アフター・エタニティ」がまたあるわけ。それで二つの山をもって「エタニティ」という。つまり、劫のように、非常によく似ているわけなのですよ。

でも、西洋では、この「エタニティ」と、その「ハウス」(家)で終わってしまうわけです。その後はボケてしまうから。ところが、私たちは、神は「永遠に命を与える」と言うから、そこで終わりはないわけです。「リインカーネーション」という「輪廻」を繰り返すしかないわけです。もう最初からそうなっているわけ。それで、ここでヒンズーの、この方(エクナット・イーシュワラン氏)はちょっと追及できないわけです。なぜかといったら「神はそこであり、私たちはここである」と。ここで断絶してしまうわけ。

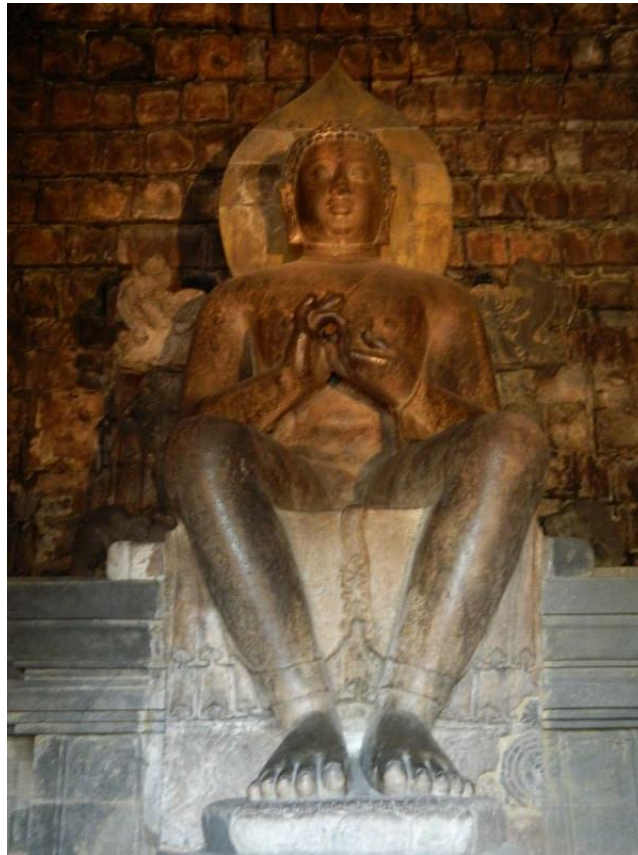
私たちは「神と私たちが一体になる」と。「仏になる」ということ。「涅槃に行ってしまう」と。それで、そこで終わらない。そこからまた人を助けに来るわけです。だから、廬遮那仏は10回、仏をやったわけ。観音様は過去に1回、仏だったわけ¹。それを、位を下げて、今、観音という菩薩行をやって、2回目を目指しているわけです。廬遮那仏というのは、過去に10回やっているわけです。その毘廬遮那仏(大日如来様)は1000回やっているわけです。だから、仏教の奥の深さはもう想像を絶するわけなのです。

大日如来様の場合は直接、私たちには瞑想が入ってきません。焼き切れてしまう。お釈迦様でも受け取れないわけで、だから、10回の廬遮那仏を通して、お釈迦様が皆さんに報告するわけです。それを何て言ったかな、法を伝えて。だから、お釈迦様は「応身仏」といいますね。それから廬遮那仏は大日如来の毘廬遮那から、その智慧を受け取って、それをお釈迦様に伝えるというような、想像を絶する、この宇宙の創り方なわけです。

だから、結局、ヒンズーのヨギも、それはある程度、間違いないけれども、その奥が行かないわけです。結局、ヒンズーの奥義が一番先の卵あるでしょう？卵、円なのです、卵。そこでストップ。ところが、仏教は「なぜその卵ができたか?」、奥義の奥義があるわけです。それが虚空蔵菩薩の秘密になっています。それは瞑想でしか観えません。

だから、ここが、お釈迦様が過去に「この神をただ拝むのはやめなさい」と。「あなたたち一人一人が、そういう神の位まで上がりますよ」と。今でも「神」と軽々しく言ったら罰せられ、殺される地域も地球上にあります。それで仏になると、私がお釈迦様を観たとき、「これぞ神」と言えば、これしかないという、本当の究極の教えを持った方以外にないですね。歩く姿がちょうどこの袈裟と一緒に。この袈裟を着て、それでこの袈裟からピカピカピカピカと金の色を放ちますね。ニミッタ(禪相、丹光)ですね、パッパッパッパッパッパッと。

¹ 観世音菩薩の過去の仏名は「正法明如来」、未来の仏名は「普光功德山王如来」(普光功德山王仏、遍出一切光明功德山王如来)といわれる。



ムンドウ寺院の御本尊の毘盧遮那仏（大日如来）

マリア様も不思議にこんな色なのですよ。人間界に生まれてきたけれども、実はこういう非常に高貴な方で、絶対に顔を見せませんよ、こうベールを被っています。やはり体からピカピカピカッと光を出します。私たちは「菩薩」と言うのでしょうか？ あの方たちは「エンジェル」と言うのですよ。

だから、大乘仏教でもシルクロードのお寺の壁画を見れば、確か阿弥陀様のお寺かな、たぶんそうだと思うけれど、そこの菩薩の方々は皆、羽を持っているお姿なわけ、羽、羽がピューッと。だから、そういうことをみんな抜いてしまうわけですよ。私がたまたま手に入れたチベットの撮った写真、昨日見せたでしょう？ お釈迦様をよく見ると、そこにちゃんとエンジェルの羽が載っているわけです、原版を私は持っていますけれど。それで、羊というのは結局、イエス様のことですね。イエス様がそう、その上にでっかく出ているでしょう？



お釈迦様、エンジェルの羽、羊が写っている

だから、「法を持つ」ということは「これくらいすごい」ということなの。だから、結局、そういうダンマヌパッサナー（法随観）と、世界のそういう経典を読めば、これがすぐに、10分しか読む時間がなかったのですけれども、この最も大切なところをひも解いてあげます。という、瞑想というのは、これくらいすごい力、すぐ読めてしまう。「あ、ここが、問題がある」と。そうでなければ、書いてあることは全部です。「愛」です。全くそのとおり。どこに行くか？「愛の船で、この苦の大海を進む」と。「慈悲の大乗船」です。一緒です。どこに行き着くかと言ったら、結局、神の家、天国。じゃあ「天界の家はどうなっているか？」と。聖書に「そこに行けば、1日1回、神より神の水を受け取る」と。その神の水を受け取るということは、いまだにどういうことか説明ないでしょう？ 実は、その1杯飲めば、それほど幸せな気持ちはないと、身体が全部光になって、それが永遠に繰り返されるわけ、ずうっと。ま、それはすばらしいことで、そこに誰もかれも行きたいと。

でも、ここで少し問題があります。「なぜ私たちが阿弥陀の国に往（い）って、極楽浄土に往くか」と。そこに往けば、菩薩道を歩めるわけなのです。本当に教えてもらおう。それがよくできたら、この地上に戻ってきて、菩薩行で人を救い上げるわけです。では何で、アイザックだったかな、エルサレムで石の枕で寝ていたら、エンジェルが階段をタッタタッタと下りてくる。それで、またエンジェルが階段でずうっと上がっていくと。結局、「菩薩行を

する人が下りてくるわけです」という説明が抜けている、その聖書を引用する場合は。

また、聖書を引用して、一番、聖書の大事なところは、前に説明した「人間は悪しきこと、善きことを知る」と。これは「クサラ（善）・アクサラ（不善）」で最も難しいところですよ。その解決方法とすれば、セイント・ジョーンズ・オブ・クロスファイヤーという、すばらしい行者がスペインで出たわけです。その人が「God dwell in the word long long time ago」ここが問題。ここがポイントなわけ。「全てあなた方の心の中に、神は同時に、それを解読できる『悪しきこと、善きこと』を知るものなり」。だから、セイント・ジョーンズ・オブ・クロスファイヤーが「God dwell in your heart」と、「Long long time ago」。

つまり、エデンの東から追放されるときに「ちゃんと神は、あなたの心の中に、言葉の中にありますよ」と。これで「マントラ」になるわけです。「ラーマ、ラーマ、ラーマ、ラーマ」と。ここまで説明しなければいけないわけです。何か皆さんいいですか。だから、いまだにどの仏教経典もキリスト経典もイスラーム経典も、私の言ったことは一つも書いていないはずですよ。でも、私の言ったことが、全て経典に、それぞれ書かれています。

というふうに、お釈迦様の教えた、この「サティパッターナ」の威力というのは、すごいことなのです、それを全部やった場合にはね。だから、西洋の方も実は分からないのですよ。私が逆にいろいろ説明してあげるわけですよ、あっちのお坊さんに、牧師様にです。彼らも苦しんでいるわけですよ。ただ、神と自分という壁があって、どうしても行けなくて、文字を解析できないわけです。解析するのは、正式なお釈迦様の瞑想法で解析できます。前は私もここまで言えない、普通の在家でしたけど、何の因縁か、こういうふうに、あなたたちに解説できるわけなのですね。ここまで明快に解読しなければいけないのに、しないから、結局、何千年も宗教戦争をやるでしょう、これだと「無明」になるわけです。西洋の言葉に発して「こうだ、ああだ」と、日本にちゃんとみんなあるのだけれども、結局、修行の行法が伝わったのだけれど、消えたのか。非常に難しいから、こういうふうに解説できないのか。

「Meditation」（瞑想）というのは「Medicine」、「Meditation」というのは「Medical」、
「Meditation」が「医学の根本」なのです。だから、原語は「Meditation」から「Medicine」とか、「Meditation」から「Medical」が来ているわけで、「マントラ」というのは「聖なる言葉」であるということです。「聖なる言葉」であるから、それを心から唱えた場合には、それはすごい威力を発する。それはそうでしょう。お釈迦様の言ったことを、そのとおりに言っただけでも、涙が出るくらい力がありますから。そういうことですけれども。ま、あんまり深刻なので、また、これくらいにして、またすばらしい彫刻家二人に（笑）。

法を求めたゆえのご褒美

ということで、私はまあ、数知れず数知れず、お寺参りしてお寺参りして、いろいろな仏に頭を下げて頭下げて頭下げて頭下げたら、こういうふうに教えてもらうのですね。「あっちに行け、こっちに行け」と、ちょうど本当に善財童子の五十三次¹って。今の私の人生みたい。

¹『華嚴経』入法界品では、善財童子が発心して五十三人の善知識を求めて歴訪する。

行く先々で不思議な不思議なお寺ばかり見てね。ここにいる方でラサのダライ・ラマさんの部屋見たことありますか。そこで寝台とか、夏に泊まる宮殿とか。全部、私はそこに昔、案内されて、全ての個室のお祈りする部屋とか、それからみんなで瞑想する、とても高い位のお坊さんだけの講堂部屋があるわけです。

ポタラの柱は大体四角ではないのですよ。ちょっとカーブになって、このカーブは微積分をやれば分かるけれども、ちょうど重力に沿ったカーブで切られているわけ。これが最も安定した構築物なわけです。だから、真四角ではなく、上の方に行けば、ちょうどオベリスク¹の柱の部分のように少しずつ細くなっています。だから、すぐにこれは太陽の神殿造りだと、私には分かった。何とそのポタラのお城の前には、ちゃんとオベリスクがあるのです。行ったら、ちゃんと今でも見えますよ。何でエジプトのオベリスクがそこにあって、また神殿造りが太陽の神殿造りだと、すぐに分かりました。オベリスクの柱を使っているから、その地球の重力に合わせての造り方です。

目隠し状態にする支配体制

というふうに、実は全部つながっているのですけれども、それが見えないことによって、戦争は起こる。見せないことによって国同士を戦わせる。結局ポーカーゲームですね。だから、相手の手を見たいわけ、何を持っているか。それが勝つわけです。だから、スパイ作戦やるわけだ（笑）。相手の動きが皆、見えるわけ、ポーカーゲーム。皆、八百長やるわけ。いかにして神通を使うか、どんな方法でも。今は神通が使えないから、今はインターネットとかいろいろなことね、宇宙からとかやるけど。

普通は神通を持てば、そんなものいらずに何をやるか、将来どうなるか、観えるのですよ。でも、その神通は、お釈迦様は「使っちゃいけませんよ」と。これには理由があるのです。私が神通を持って、ある国だけを助けたら、この国にとって、最大の邪魔なわけ、殺されるわけ。そんなことよりも「法をつかんで、人のために尽くしなさい」と。

今、カンボジアの宮殿道場に行けば、広大ですよ。まあびっくりするくらい、全部、王様がお金を出してやっているのだけれども。そこに偉いお坊さんが寝ています。何年前に死んだのかな、20年前かな、非常に有名な方で、そこにいて皆、頭を下げるわけです。なぜ、このお坊さんが死んだかと言えば、神通を持っていたわけ。いつも王様の方を助けていたから、相手に殺されたわけです。

というふうに、いかに神通を持っても、その神通を見えなくする、また魔教というものもあるわけです。まあすごいポーカーゲーム以上にゲーム戦争で、100年200年、今、バチカンでは2000年、7人がセブンスターとって、実は7人だけが決定する力を持っているわけ

¹ オベリスク (obelisk) : 古代エジプト (特に新王国時代) 期に製作され、神殿などに立てられた記念碑 (モニュメント) の一種。ほとんどは四角形の断面をもち、上方に向かって徐々に狭まった、高く長い直立の石柱である。先端部はピラミッド状の四角錐 (ピラミディオン) になっていて、創建当時はここが金や銅の薄板で装飾され、太陽神のシンボルとして光を反射して輝くようにされていた。

です。7人だからね、割れたら、絶対に「イエスカノー」とか割れるわけ。また、7人全員が賛成しない限りは、絶対に問題はそのままずっとあるわけです。確かヨーロッパに4人、そしてカナダ、アメリカに1人、もう1人忘れました。7人がいるのです。これが最終決定。だから、いまだに2000年来、解決しない問題が中にあるわけです。

というふうに、2000年をもつ帝国も、ちょっとないでしょう？ そして、スメリア（シュメール）王朝の、その子孫が全世界の金を握っていると。当然、スーパーKnowledge（知識）を持っているから、ある意味で歴史的には5000年。その一族が今、ヨーロッパからずうっと世界に網の目のように経済網をもっているようです。全てのこの杓子定規、重さあるでしょう、ずうっとたどっていけば、全てこのスメリア・カルチャーになるわけです。その昔、洪水で滅びたという、42万年前に洪水が来て滅びたという「ノアの方舟」の伝説は、ここから来ているみたい。

それで、その1グレインというのはgrain、穀物ですね。穀物。この穀物には重さとサイズがあるわけです。これが全てのメジャーメントはここから来るわけです。センチメートルでもパウンドでもインチでも。その後、「Egyptian falsification」といって、エジプトでは、これを、1ヤードを、エジプシャン1ヤードというふうに変えたわけ。それで別れていったけれども、ロシアのある測量を調べる人が追跡していったら、スメリア・カルチャーから出て、そこから全部すべての長さ・重さ、そこから全世界に今、出ているわけ。だから、一尺が1フィートに似ているわけです。1寸がちょうど1インチ。すべて「Spanish Pound」、
「British Pound」、
「Spanish foot」、
「British foot」、ちょっとずつ変わっていくわけです。

ここでは鯨尺（くじらじゃく）とか、昔あったでしょう。いろいろなサイズ、柁一升も変わるでしょう、畳一畳も変わっていくでしょう、北と南と。そういうふうに原点は同じだったわけですね。それがずうっと変わって行って分からないようになります。生徒から送られて、その聖書の原本を見ているから言えるわけです。その原本を見なければ、ここまで言えないわけです、どこでどうなっているか。その一節が外れてしまったら、私が解読できないようになっているわけです。だから「この世はいかに知らせないで隠していくか」と。

そうでなければ、問題が一つあるのは、その富を持った国は、やはり失いたくない。富を持たない国は、その富を分けてほしいと。そうしたら、その富を持っている国は、分けてほしいという国に、一切の情報を与えなければ、これでよいのだと思うわけです。生活も何も相手の国のことは分からない。「じゃあ、みんな一緒だ」と、貧しい国も豊かな国も、これで万々歳なわけ。

ところが、今はインターネット時代で、もう分かるようになったわけ。それで、全世界が荒れ始めているわけです、「同じ富を持ちたい」と。ところが、これは不可能なわけです。その民主主義では誰でも首相になれると。現実はまだ代々つながっているとか。現実には1グループが政権を取ってとか。ま、そういうふうなことなわけ。人間は甘い夢を見る動物だから、宝くじとか。

そういうことよりも、お釈迦様は「手に握るだけの葉っぱ」という「知識」で十分です。「森の全ての葉っぱ」を知る必要はないです。何て言ったかな、「掌中葉」、有名な言葉。南の国に行けば、ジャングルに葉っぱがいっぱいあるでしょう、森。その中で、たった大切な

のは、お釈迦様がスーッと葉っぱを拾い上げて、この「掌に中にある葉っぱ」だけをあなたたちは知れば十分ですよ。ということは「法を学べば、それでOK」と。

私が幸いカナダにいるから、最低これくらいの情報をもてますけれども、私の言っている情報は、日本では絶対に見られないし、あっても分からないはず、読めないし。「瞑想をいかにするか」という法も伝わっていないから。だから、ここでは「ニミッタ」というのは、もう新しい南伝、ここにあったし、中国にもあったし。その経典もあるし。

それで、確かにパーリ語の経典は読みやすい、意味深い。簡単に書いてあって、実にストレート。それが結局、サンスクリット、それから中央アジアの言葉、変遷してきたら、中国に渡ったときには、やはりものすごく難解の言葉になるはず。ところが、南伝のそういうパーリ語を読めば、非常に明快で心にスーッと来ます。だから、私はパーリ語の経典を読むでしょう？ その辞書を使って、非常に明快。ところが、漢文で書かれている言葉はチンプンカンプンなのですよ。

その龍樹菩薩が何であれだけ有名かと言ったら、あるお寺に行ったら、龍樹菩薩が通さないわけですよ。龍樹菩薩が針をポーンと水瓶に落としたわけ。それを見て門番がお寺の和尚さんに「龍樹菩薩は何か不思議に針を水瓶に投げた」と。彼がすぐに分かった。「私はどんな法でも打ち破りますよ」と。「水というのは法」なのです。「ツ」(さんずい)に「去る」。だから「水」。それで「針をポーンと入れた」というのは「どんな法でも破りますよ」と。それで中に入れて問答をやったわけですね。「中に入れない」ということは「この和尚さんは、まあ程度が低いから問題ない」ということ、「話にならない」ということ。漢文では、これは読めませんよ、残念ながら。

というふうに、結局、漢文バイパスですね。直接、言語に近い英文とかパーリ語で読むから、非常に理解しやすいです。ただし、それは瞑想した場合。瞑想しなければ分からないところが、たくさんあります。北伝のすばらしいことは空の世界をバーンと観せてくれるからね。南伝の人は、そこになかなか行けないわけ、なかなか。だから、行を終わった人に私が質問したわけ、「あなた、これ観たか？」と。たった一人だけ明快に回答してくれた人が1人いるわけです。この人がもう本当は隠れたパオ・セヤドーのNO.2、絶対、表に出ない。誰が誰か、誰も分からない。パオ・セヤドーはちゃんと神通を持っているわけですよ。何が起きているか、分かっているわけ、でもやらせておくわけ。

だから、私のことも、やっていたときには、いちいち電話を掛けていたみたい、彼が旅行しているとき。だから、最初、会ったときには、すぐ通されて、その前に1回、彼の自室に会っていますけれども。というふうに「現実の本の世界」と「うわさ」と「実際」は、大いに違うのですよ。



水源禅師とパオ・セヤドー

でも、こういうことを言っておかなければ、ますますおかしくなっていくから。もう昨日も一昨日も見せたけれども、結局、東京大学の理二と言ったら、やはりすごい頭脳です。その人が全経典を読んで書いたとなったら信じますね。

ところが、内容を見たら、もうグチャグチャ。何だったかな、『暗号は解読された 般若心経 改訂版』、あの方はどんな方なのですか？ でも、肝心なところは一つも説明していない。それで解読したとなるわけ。それで皆さん分からないから、「あーそうか、そうか」と。分からなくて「あーそうか、そうか」と、彼も分からなくて（笑）。

だから、今、あなたたちは、この方たちよりも数段上に行っているわけです。実際、身体を使わせて体験しているでしょう？ この方たちは全然、体験していない、観えていない。やったこともないはず。

その法を受け取るには、その先生がいるわけです。その大先生はお釈迦様なわけです。その上の一番、偉い先生は阿弥陀様なのです。現存する全宇宙の仏の先生なのです。だから「一心をもって帰依しなさい」と。そうしたら「そういうご褒美が来ますよ」と。まだ「信心」がなければ、いくら頭でやっても無理なのです。ハーバード大学でもケンブリッジ大学でも無理なのです。全然ダメなのです。人類の宇宙的な知能は非常に低いのです。低いがゆえに、私たちはこうしてお釈迦様の教えを信仰で、信心で歩めるわけ。これがちょっと、頭が、生命体が20万年くらいになったら、解析がダーッと早いから。「信仰心」という「定」が出ないわけです。

だから、スリーパーダという、お釈迦様が全宇宙に向かって、バーッとメッセージを送るわけですよ、「仏に成りました」との報告。スリーパーダというスリランカあるでしょう？なぜ、お釈迦様があそこに行くかと言ったら、全宇宙に対して法を、メッセージを送るわけです、そのサイキックパワーというか。それで、そこに日蓮宗系のお寺（日本山妙本寺）があるわけですよ。その和尚さんが親切に私を山に連れていって、降りてきて「あそこを見てください。グリーンがあるでしょう？ あれは20年前にUF0が止まったところですよ」。それで私が「ちょっと待ってください」と、「私はそこに行って、見てみますから」と。この和尚さんはすごい行力を持って、毎日トントコトントコ上がっていく方だから。私は3時間くらいかかるのに45分でトン、トン、トン、トン、トンって。

だから、それぞれの宗教で、やはり行をやっているわけですよ。アチェ大地震のときは、足が震えて動かないわけ、上がらないわけ。それだけ身体がもう純化しているわけです。私たちは何も知らない、逆に海に向かっていく（笑）。それで何でそんなに遅かったのですか？ずうっと道が分かれて円盤が止まったところ、そこだけが上から見たら、今でもグリーンなのですよ。いつまでもグリーン、ポッカリと。大体60メートルのエリアかな、だったかな、もっと小さいかもわからない。

それで、私はそのときにもう瞑想していましたから、手を当てたら大体、分かるのですよ、どういうバイブレーションか。完全に機械化社会、機械、純機械化社会、愛はなかった。それで、なぜそこに止まったかと言えば、そういう超文明は2000年前でも、今日のように解析できるわけです、「お釈迦様が何を言ったか」、過去の情報を知りたかったわけ。それで、そこにずうっと来ているわけですよ、私は思いました。そうでなければ、来る必要がないわけです。それで、そのときもう一人の日蓮宗系のお坊さんが、そこで断食瞑想していたらしい。窓があるのですよ。円盤が止まったところが、ちょうどそこから見えて、そのお坊さんが「円盤が下りてきた」と。私たち生命体は、この地上のことだけ覚えているでしょう？

実は、外宇宙的生命体と非常に密接に、私たちの体の作り方は関係しているのです。それがもうアメリカでは分かっているわけです。でも、一般の私たちには知らせたくないから、そういうことを言えば「アホじゃないか」とか、そういうタコの墨みたいにパーパーパーッとやって、目隠し状態にするわけですね。でも、アメリカの方では、もうちゃんと知っているわけです。それで「次は何をやるか」と、「次はどういう食物を作るか」とか、全部分かっているわけです。それは相手が分かったら、もうできないでしょう？ ポーカーゲームで。だから、その確認として、全世界を知りたいわけ、どれだけ相手が知っているか。ということは、どういうことを皆さんが話しているか、解析すれば、どれだけ知っているか分かるわけ、漏れて。

あっちの情報機関の人は言っていました。「私たちは、その国に行って調べるのではないのですよ。新聞を全部、読み尽くす」と。それで、どういうことが起こっているか分かると。その国の情報レベルの度合いがよく見えるそうです。私もカナダにいれば、大体インターネットで全世界の主要なニュースはダダーッと比較して全部見ます。それで継ぎ合えれば、この次は何が起こるか、大体、分かる。もう10年も20年も前から、今になることを子どもに言ったら、もうカッカ、カッカと頭に来て「イヤーこれから未来はもう平和になって、すば

らしい大世界が来る」と、夢見るわけですね、「そうじゃないんだよ。これから大変、恐ろしい時代が来るよ」って、もう完全に真反対のことを言うから、もういつもカンカンに怒って。でも、だんだんそうなっていくでしょう？ だから、この頃はあまり何も言わないでジーンとしていますよ（笑）、過去に予言したことがずっと起こっていくから。ということは、秘密は何もないのですよ。誰かがどこかで後足を残すわけです。その後足の見つけ方は日常生活の中からちゃんと分かります。その足跡を解析していけば、その人の行き先表示になります。何も未来を知ることは不思議ではないわけです。

ただ私の場合は、世界の人と一緒に暮らしているから、何を言わんとしているか、その国の言葉で書かれている英語が分かるわけですよ。ミャンマー英語は、ほとんど分からないですよ。これは 100 年以上前のこと。British Indian English だからです。British Indian English、まあ古い言葉と、それを今度、アフリカ Angola British English の人が、本を書いているからね。Western American English だったら、すぐに分かるけれども、English English でもよく分かるのだけれども、Australian English になったら、ちょっと分からない発音がパッパッパと出るけど、方言だからね。だから「英語、英語」と言っても、California English と Eastern New Yorker English と全然、違うわけです。New Yorker は Italian culture の English。Vancouver English と Toronto English はまた違うわけです。Toronto English がカナダの標準語で全くアクセントのない Canadian English ということになっている。

だから、私はそういう人たちと付き合っているから、意外と言葉の使い方が分けるわけです。それで、また労働者 English と Academic English と、また使い方が違うわけです。だから、日本から来た学者タイプの人とか、日本で教育を受けた人は、あっちで「この仕事をしてくれ」と言っても、値段を上げられます。それで、私がスーッと、その労働者の言葉で言ったら、値段が半分にすぐ下がるわけです（笑）。ま、これが、現実の私たちが生きている世界です。「今日は一体、何を話そうかな」と、幸いこういう教本があるから、一応、その説明をさせていただきました。でも、日本では、こういう本は何かすごいのですか？

【参加者】

ヨガの生徒さんたちの希望で、私の娘がイーシュワランの先生のところに行き修行に何年間、行ったのです。そこで先生が出されたメディテーションの本を訳そうと思って、訳しながら、また勉強会をしようということで、興味のある方を何人か呼んで勉強会をしたのです。

【水源師】

基本は今のポイント、忘れないように。そこをもって訳したら大丈夫です。ま、こういうふうに「何を話そうかな」といったら、天からもう本が降りてくるようにスーッと、じゃあ 10 分しかないけど、タラタラタラと読んで、今こういう話がタラタラタラッと言ったわけですね。ま、これでまた何か質問があれば。

質疑応答

マハーニッバーナ・ダートゥ（大涅槃界）

【参加者】

ある方が『法話集』を読んで、「ボロブドゥールの『大涅槃界』のことを詳しく、どういうことなのですか」という質問があったのですが。

【水源師】

あ、そうですね。日本の「大涅槃界」は、Aさんが、その学校の専門だから、日本語でよく説明した方がよく分かりますよ。それで、そこで分からないところは、私が付け加えて説明します。「大涅槃界」のことをちょっと解説してください。

【Aさん】

いや、もう私は。「マハーニッバーナ・ダートゥ」（大涅槃界）ということで、その「涅槃の世界」が、Bさん、Cさんとご一緒したパウオンで、先生が第九禪定（滅尽定）を使われたときに発生したということでございますか。

【水源師】

「ニッバーナ・ダートゥ」が、ゲートが開いてダーッと降りてきたわけです。というふうにピラミッドはそれまで眠っていたわけです。それを始動させるには、まず護摩焚きが必要だったわけです。不動明王様は知っていますね。その本当のお姿はどんな色か分かりますか。アカラという。アカラは赤、アカは水。アクア、アクアマリンのアクア。それで、その不動明王様の本当のお肌は、水の波のように揺れているのですよ。そして水色なのですよ、濃い水と黒。それは西から観たら、そう観えるわけ。今度、東から観たら赤色になるわけ。おかしいじゃないか、一つのあれが水色と赤色と、私たちは思います。

中国に西藏二大寺院があるわけです。一つはラサ、もう一つはロアーチベットというチンカイ（青海）省にある3000メートルのところにパンチェン・ラマのお寺があるわけです。そこで多羅さんの絵が書かれて、一つがそこでは水色だったわけ。それで、今度、上に上がったら、その多羅さんの方角があるわけですね。その菩薩というのは方角を持っているわけですよ。観世音菩薩は必ず北西に書かれるわけです。「何でこの下の寺では水色で、何でここはグリーンなの？ そんなバカなことであるか」、「いや、建物が変われば、色も変わります」と。私は本当にバカだったから、「イヤーこんなバカなことがあるか」と、プンプンに怒って「何やっているんだ」と思って（笑）、ところが正解なわけでした。そのとおりのわけ。結局、私が青不動明王を観たのは西から東を見たとき、赤不動を観るときは東から西を見るときにそう観えるわけ。嘘を何もついていないわけでした。

その解析によって、生駒の合宿あるでしょう？ あそこを発見したわけです。「測ってみたら、この地点に日本で最も聖なる場所があるはずだ」と言ったら、そこが生駒の山頂だった

わけです。そこには龍光寺とあって、そこで神武天皇が三種の神器を前の大王から受け取ったわけです。だから、その前も、ちゃんと大王が日本にいられたわけです。大和の国で、三種の神器を持っていたわけです。というふうに、その和尚さんが言ってくれました。それで、私はそういう話は全然分からなかったけれど、結局、行って発見した場所は、まさに最も聖なる日本の場所だったわけ。つまり、京都が金剛界になるわけ、ボロボドゥール。それで、高野山がムンドゥになるわけ。だから、高野山は赤不動、その京都は東寺の青不動ということになって、そこを直線で引いたときが、生駒のそこの龍光寺さんですね。



龍光寺の入り口



龍光寺の滝行修行場



八大龍王尊、大日如来、釈迦如来が奉祭される本堂

それで、話は神武天皇が三種の神器を受け取ったそうです。そのときは、神武天皇は九州の日向にいて、天から声が聞こえてきました。この天下にはミコトが二人いると。そんなバカなど。ミコトは私一人だけだと。いや、それは大和の国にいます。じゃあどれどれ、と上がってきたのが、大津、大阪なわけです。そこからずうっと上がってきているわけです。

だから、大阪は非常に古い町で、そこから一望に全大阪が見えますよ。それはきれいなところ。それで、そこで皆さんと一緒に瞑想したから、やっぱりすごい現象が起こってね。私はそこでガーンと苦勞したのですよ。何というか「邪魔が入る」というけれど、皆さんは「いやーすばらしかった」と、私はもう必死になっていました (笑)。



大阪・京都・奈良を一望できる本堂前展望所

それで、その「大涅槃界」ね、「マハーニッバーナ・ダートゥ」というのは、結局、発生するのは、弥勒菩薩が出たときに発生させるから、「皆、悟りを開く」と。そして「預流果の位に上げてしまう」と。それで、これを発見したのは、私がミャンマーのレディ・セヤドー¹（1846-1923）の経典を調べに行ったときに、彼の『Manual of Nibbana』、「どうしたら涅槃の世界に行けるか」と、その本の中をひも解いてみたら、「三十七仏²を説けば、弥勒菩薩を待たなくても涅槃に行けます」と。それですぐ分かったのは「護摩焚きの行をやる時は、三十七仏を説けばよい」ことが分かりました。ただ、私のもらった教本には三十七仏の名前がちゃんと書いてなかったから、すぐに日本に打電して「三十七仏の、仏の名前を教えてください」と、それで、護摩焚きのときにダッダッダーと言えばよいから。



ボロブドゥールの不動明王護摩供で
三十七仏の真言を唱える水源禅師

¹ Ledi sayadaw：ミャンマーの有名な僧侶で、伝統的なヴィパッサナー瞑想の復活に努めた。ダンマに関する多くの著作がある。

² 大日、阿閼、宝生、無量寿、不空成就、金剛波羅蜜、宝波羅蜜、法波羅蜜、羯磨波羅蜜、金剛薩埵、金剛王、金剛愛、金剛喜、金剛宝、金剛光、金剛幢、金剛咲、金剛法、金剛利、金剛因、金剛語、金剛業、金剛護、金剛牙、金剛拳、金剛嬉、金剛鬘、金剛歌、金剛舞、金剛香、金剛華、金剛燈、金剛塗、金剛鈎、金剛索、金剛鎖、金剛鈴（以上、敬称略）。



三十七仏の真言を唱えた、
ムンドゥでの不動明王護摩供

それで、レディ・セヤドーというのは、ゴエンカさんの大先生ですね、1846 年生まれて、1920 年代に絶たれた方で、この方はやはりもう「悟りを開かれた阿羅漢」としか思えないですね。というのは、私たちは第九禪定（滅尽定）を文献によって分かるけれどもね、この瞑想の禪定について、私は長ーいこと疑問に思ったところが一つだけあるわけ。彼が、そこを明快に説明していたわけです。その文は、どの経典でも見えないけれど、その彼が書いた 100 年前の経典に、そのことが、そのときは書かれるけれども、現代はちょっと極秘でよいと思います。必要ないと思う。誰かがそこに達したら説明します。

それでなければ、また「それは何だ、これは何だ」で、クラクラして何の役にも立たない。私はたくさんの情報の中で生きていたから、たまたま私は大先生から法を受け取って、観られる目ももらったわけ、戴いたわけ。だから、先生がいなければ、この目は開かなかったわけです、自分で学んだわけじゃないのです。というふうに「因縁」をいうのは、非常に大切なわけで、「因縁」なくして何も起こりません。

天界の神々も待っていた大涅槃界

【参加者】

先生は、そういうふうに「大涅槃界」というのを、ボロボドゥールに降ろしたことで、何が変わったのですか。

【水源師】

天界がダーッと降りてきました。待っていたわけ。というのは、ある天界では、ここで100年が1日なのです。お釈迦様が絶たれて、たった26日しかたっていないわけ。25日？もたっていないわけ。だから、そのときに見逃がした天界の方がいるわけです。お釈迦様に出遇えなかった。私はそうとしか思えない。

だから、そのことを龍樹菩薩が知って、すごい構築をしておいて、弘法大師様がお隠れになって1200年後に、もう1回、火を灯すと。私はそう思います。というのは「死んだ」と言っても、車で3日かかったら遅れるでしょう？ この宇宙は大宇宙で、たくさんの神々がいるから、駆けつけても遅れる場合があるわけです、生きているときに。そういう法をお釈迦様から受け取らなかった神々も、天界にはたくさんいると思います。

それで、お釈迦様が生きているときは問題ないでしょう？ すぐ受け取れるから。大涅槃界を発生させることができたらいのだけれども、お釈迦様はこう言いました。「この後、500年の正法時代には、私が及ばない、はるかに、はるかに、すばらしい先生が出られます」と。それで、私はたぶん「これは達磨大師様かな」と思っていたけれども、やはり龍樹菩薩以外に考えられないわけ。達磨大師（西天二十八祖¹・東土初祖）は二十八代で、龍樹菩薩は十四代、その半分。それで、その人が龍智、金剛智、不空三蔵を、そこのボロボドゥールに送っているわけですよ。

阿弥陀仏の浄土

弘法大師様が法灯を受け取るのを、それを見届けて、阿弥陀の国に往（い）ったわけです。だから、なぜそこに往くかと言ったら、阿弥陀の国に生まれれば、菩薩の位が7階級、特進してしまうわけです²。だから、法然上人が「阿弥陀の国に往くのは3回目だ」と、「3回目は

¹ インドにおける二十八人の伝灯の祖師のことで、第一祖は釈尊から法を受け継いだ摩訶迦葉尊者、第十四祖が龍樹菩薩、最後の第二十八祖が達磨大師。

² 世親(天親)菩薩(vasubandhu)は『浄土論』(『往生論』)に「すなはちかの仏を見たとまつれば、未証浄心の菩薩畢竟じて平等法身を証することを得て、浄心の菩薩と上地のもろもろの菩薩と畢竟じて同じく寂滅平等を得るがゆゑなり」と、浄土に生まれて阿弥陀仏を見たとまつると、初地から七地(菩薩52位の修道階位の第41から47位)までの菩薩も、ついには八地(第48位)以上の菩薩と同じように寂滅平等を得ることができる、と示されている。さらに、『浄土論』を註釈した、曇鸞大師(476-542)の『往生論註』(『浄土論註』)には「龍樹菩薩、婆藪槃頭菩薩(世親)の輩、かしこに生ぜん願ずるは、まさにこれがためなるべきのみ」と、龍樹菩薩や世親菩薩のような方々が阿弥陀仏の浄土に生まれたいと願われたのは、まさにただこのためである、と述べられている。

特に行きやすい」¹という。それはね、阿弥陀の国は極楽浄土、どういう意味か知っていますか(笑)。私は最初、何回も法話で話したけれども、阿弥陀の国を探したのですが、観えなかったですよ。びっくりしてしまって、「いや、まさか」と。結局、キリスト教では「前世はない、来世もない」と。そういうショックを受けたわけ、「まさか」と。

幸い39時間の瞑想をやる時間があって、ターツといたら、何と観音様がサーツと降りてきて、ここから火がスーツと降りてくるわけ。カルーナの火の鳥、それがずうーっと阿弥陀様になるわけです。だから阿弥陀様は赤い色なのです、朱色。それで、阿弥陀の国に連れて行って、観せてくれたわけですか²。いやー純粋な音楽、純粋な音楽がダーツと、花びらが散っているのですよ。ターツと。まーまー気持ちのよい処。

その世界には、摩訶不思議なことに蟻さんもいるのですよ。蟻でも阿弥陀の国に往ってしまうと、何かの因縁で。だから、ましてや人間が本当に雑念を捨てて、一心に阿弥陀様を信じて、嘘をつかない、真面目に、そして人のために尽くせば、阿弥陀を心から信仰すれば、私は阿弥陀様が来て、連れていってくれると思います。それで、そこに往けば、次は涅槃の世界に行ける修行道場なわけなのです。それも「楽、楽、楽で修行できるから、行きなさいよ」と。

もし、菩薩行をやるのだったら、結局、弥勒様がお釈迦様のときに修行されたように、いやーそれはね、大変な行ですよ。お釈迦様も言ったけれど、「あの山を見ろ、いくつ見えるか。あれくらい私は首を落とした。天界を見てくれ、あの星の数ほど目を抜かれた」という壮烈な行をして、最も暗き世に降りてきたわけです。普通は100年以下だったら、仏は出ないのです。それで、お釈迦様が出てきたときには、人間の寿命が100年だったわけ。80年で死んで、20年の寿命を、この私たちのために置いてくれたわけです。仏は死なずに1劫でも2劫でも、いくらでも生きられるのだけれども、それこそ、キリスト様が生贄になって死んでいったわけ。

そのとき、アーナンダ(阿難)が(お釈迦様に)食事を持ってきたわけ、食べなければ、生きていくわけ。それは豚肉の腐った物をピンダバーダ(托鉢)で受け取って、仏としては受け取ったものは「幸福を与えるために全て食べる」と、そうして死んでいったわけ。アーナンダ様が、なぜそれをしたかと言ったら、ちょうどお腹に小豆くらいの魔が入っていたわけ。だから、そのとき、アーナンダ様が「お釈迦様、どうか5劫でも10劫でも生きてください」と、一言掛ければ。お釈迦様は死ぬことはないわけ。

というのは、達磨大師だって、毒を飲んでも関係ないのに、たったそれをお願いできなかったわけ。だから2月3日だったかな、「鬼は外」って大豆でしょう？ それなのです。小豆

¹ 親鸞聖人の『高僧和讃』『源空讃』第14首に「命終その期ちかづきて 本師源空のたまはく 往生みたびになりぬるに このたびことにとげやすし」、第16首に「粟散片州(日本)に誕生して 念仏宗をひろめしむ 衆生化度のためにとて この土にたびたびきたらしむ」と、法然上人が「浄土へ往生するのは、これで三度目になるが、今度の往生は殊に遂げやすい」(第14首)と仰せになり、「この世にたびたび来られた」(第16首)と讃えられている。
² 源信和尚『往生要集』には、玄奘三蔵や道宣律師の文を引用して「三地の菩薩、はじめて報身の浄土を見る(ことを得べし)」と、三地(菩薩52位の修道階位の第43位)の菩薩になって、はじめて報身仏の浄土を見られる、ということが述べられている。

は韓国だね、韓国は小豆を使うのですよ、「魔を払う」と。混同してごめんなさい。小豆なのですよ、だから何の日かな？ 1年で最も暗い日に小豆のお汁粉を食べさせる、「これから一年間、魔が入らないように」と。

宇宙的な数学の検証力をもつマヤ文明

【参加者】

「大涅槃界」を先生が降ろしたというのは、天界の人にはよいですけども、人間にとっては、あまりプラスにならないのですか。というのは、先生の先ほどのお話ですと、人間に人類の未来は真っ暗だと？

【水源師】

でもね、「大涅槃界」を起こした私だから、こうして話を聞けば、この因縁で、すごい処につながるのではないのですか、そう思っただけならば。幸いそこに来られた方は非常に幸いです。7回転生した後で、涅槃に行ける預流果の位の権利を持ったからです、7回後には悟りを開くだけでも、お釈迦様を傷付けたということで、デーバダッタ（提婆達多）は無間（阿鼻）地獄に墮ちていったわけ。なぜ、またそこから上がってくるかと言ったら、お釈迦様は彼のダーナ（布施）を受け取ったわけ。ダーナというのは（デーバダッタが）「私は、とこしえにお釈迦様を尊敬します」と言って、墮ちていったわけ。これがダーナなわけ。

それで無間地獄と言ったら大変ですよ、中劫という、さっき説明したでしょう。1辺40里の大きな石の岩盤がなくなって、その数知れない劫だから、この劫ということが誰も解析していないのですよ。インドのカルパ（劫）は43億2000万年。私が解析した、次の弥勒様が出る時は56億7000万。今度はそれを100年に1回、芥子（ケシ）の種粒を1辺40里のお城の中に入れて満杯になったときが1劫という計算。又は、人間が無数の歳（阿僧祇歳）から100年に1歳ずつ減ってきて10歳に至るまでの減劫と、10歳から世代ごとに倍増して、そこからまた無数の歳（阿僧祇歳）に至るまでの増劫とを合したのが劫という、それが一つになって一つの劫になっているわけ。これを解析した、仏教の和尚さんは誰もいまだにいないわけ。なぜかと言ったら、数学的な絶対的な検証を持っていなかったわけです。

そういう検証力を持っているのは、マヤ文化だけだったわけ。そのチチェン・イツァに行けば天文台があるわけ。その天文台は石の上に水の壺があるわけです。その水がちょうど全て一直線に全て水平になるように、そうしたら、そのときに水平で地上を見るわけです。そのチチェン・イツァのピラミッド頂上に行ったら、その地上は緑色のジャングルなわけ。それで、穴がサザエの貝殻のように彫られているので、目の位置と非常に小さい穴の位置から見た、ジャングルの水平線に星が上がったときに、これが何日何日と決まるわけ。だから、この時計は小さいでしょう。そのマヤ文明の方たちは水平線の大きい時計を持っているわけ。だから1日1日、数えていくのですよね。

それで、基礎ナンバーは13と20なわけ。13はなぜ出たか分からないけれども（月歴は13カ月）、20は、この人間の手、5、5、10、10、20。この組み合わせ。地球のこの1年365日と

地球から見て金星の一周は 584 日なのです。だから地球が 8 回まわって、金星が 5 回（地球と金星と太陽が並ぶのが 584 日目、 $365 \times 8 = 584 \times 5 = 2920$ Earth day）、金星の 1 年は 224 日。これが今度、宇宙的な時計で見ながら計るわけ。結局、この穴でしょう、高いところから。だから、四つの方向に穴が開いているわけ。そこから見えるわけ。というふうに、私たちはクリスタル時計でやるけれども、それでもかなわないわけです。非常に正確に地球の自転を使っている、それから太陽の動き、星の動き、全部、合わせて時間を作っているから。その時間帯は 6400 万年、それで 2012 年 12 月 21 日はちょうど 5125 年の区切りで、今、新しいまた区切りに入ったわけです。それを世紀末説で（笑）、ということに付け加えて。

たしかに、今の私たちのこの時間帯は宇宙の中で、ごみの中を通っているわけです。太陽が 1 周、銀河系を回るのに 3 億年かかるわけ、3 億年。だから、マヤ文明はちゃんとなぜか知っているわけ、という時間帯を持っているわけです。私たち仏教はあるのか、消されたのか、ないわけです。あるとすれば、ナーランダ大学（現在も天文台の遺跡がある）やガンダーラ大学が持っていたはず。イスラームが 1000 年前に、ガンダーラ大学、ガンダーラ美術あるでしょう、あれが大破壊されて、1 日に 3 万人のお坊さんが殺されたわけです。私がバナラシにあるチベット大学の教授に「あなた方は 1000 年前にチベットに逃げたでしょう」、「はい、そうです」。だから、そのときにナーランダ大学の教授はチベットに逃げていったわけ。グル・リンポチェの出身は「アフガニスタンの蓮の華から生まれてきた」といわれていますので、ガンダーラ大学の教授たちもチベットにたくさん避難したのではないかと思います。

それで、チベットのああいふ、すごい行とか、大乘のものが残っているわけです。南伝の方はイスラームが、そこまで行かなかったから、残っていたわけ。というのは、そのとき、タミール王国というのがあって、ヒンズーの王国です。そのときに、王様がイスラームを打ち破ったわけです、ヒンズーがイスラームを。それで、そこでストップして、そうでなければ、もう全部そのときから、スリランカも回教国、タイも何も残っていないという。

というふうに、すごい因果関係が続いていくわけ。あの経典を読むよりは面白いでしょう（笑）？これが本当の話なのです。だから、仏教というのは生き生きしているわけです。それを何か砂を噛むように「読むなど、知るな」と書かれているふうにしかならない、徹底的に眠たくなるように書かれている、訳が分からない。だから、仏教の話をずうっと見たら、宇宙の大、大、大ロマン。もう下手な恋愛小説、もう問題にならない（笑）、ということです。

大涅槃界の現象

【参加者】

先ほど「マハーニッバーナ・ダートゥ」が降りてくると、預流果の位？

【水源師】

そこにいれば、そこにいっただけで、そう。現象、説明してあげて、何を観たか？カナダの私の生徒が、その後、尋ねてきて、そこに連れて行って瞑想したわけですよ。そうしたら、「自分が猫さんになって、小さい窓の中から、こうして見ているのです」って。そして「部

屋の真ん中から金粉がプーンと吹き上がっている」と。この人は mining engineer（鉱山技師）の Irish British Canadian で仏教と全然、関係ないわけですよ。私は何も言わなかったけれど、というふうに普通は観えないでしょう？ 何も。それで瞑想させたら、そのときも、「それがフーッとこの地球に上がっていった」「火がチラチラと真ん中から燃えていた」と、彼はそれが分からないけど、その報告をしてくれたわけなのです。

それで、昨日、仏像のときにお話ししたでしょう？ 受け取った仏を、その仏壇に納めたら、金色に光り輝いて、そして中がもう赤紫から紫になって、ダーッと仏壇の中いっぱいになりました、仏の顔がワーンと変わっていくと。その中に女性の顔があつて「これはおかしいな？」と。それで、私の先生（印幻禅師）に聞いたら、「過去に女性の仏はありましたか？」、「いや、おるよ」と。さすが私の先生で経典を全部読破しているから。だから二つ持っているわけね。経典を全部読み尽くし、また瞑想もできると。という、これもすべて「因縁」ですね。

それで、私の観たのが間違いないと。私たちは「仏」と言えば、皆、男性でしょう？ それしか見ていないでしょう？ それで、その仏は、やはり軍人みたいな顔をしているのもおるわけですよ。それで、やはり経典にも、そういう仏が出ているわけね、書かれてあるわけ、という話になりますけれど。

ま、ここまで言うのは、やはり私がこう言わないでおけば、今までどおりで「ないないないない」と、「何にもない」と。私が黙っていて、皆さんが暗い処に行ったら大変でしょう？ 私がアホになって、皆さんに報告して「私というものはない」のだから。アホでも何でもござれで、こうして報告して、またそれを受け取って「あーこれから信仰する」と、そうなれば、私にとっては万々歳。「いや、そんなものいらない」、それも万々歳。その人は修行して行くだけだから、ということです



大涅槃界が発生したパウオンの天井



大涅槃界が発生したパウオンの内壁とオーブ

観がたく悟りがたき法

【参加者】

ゴータマ仏陀（釈迦牟尼仏）様が悟りを開いたときに「この法を衆生に説こうかどうか迷った」というふうに、経典とか書物で読んだことがあるのですけれども、それは？

【水源師】

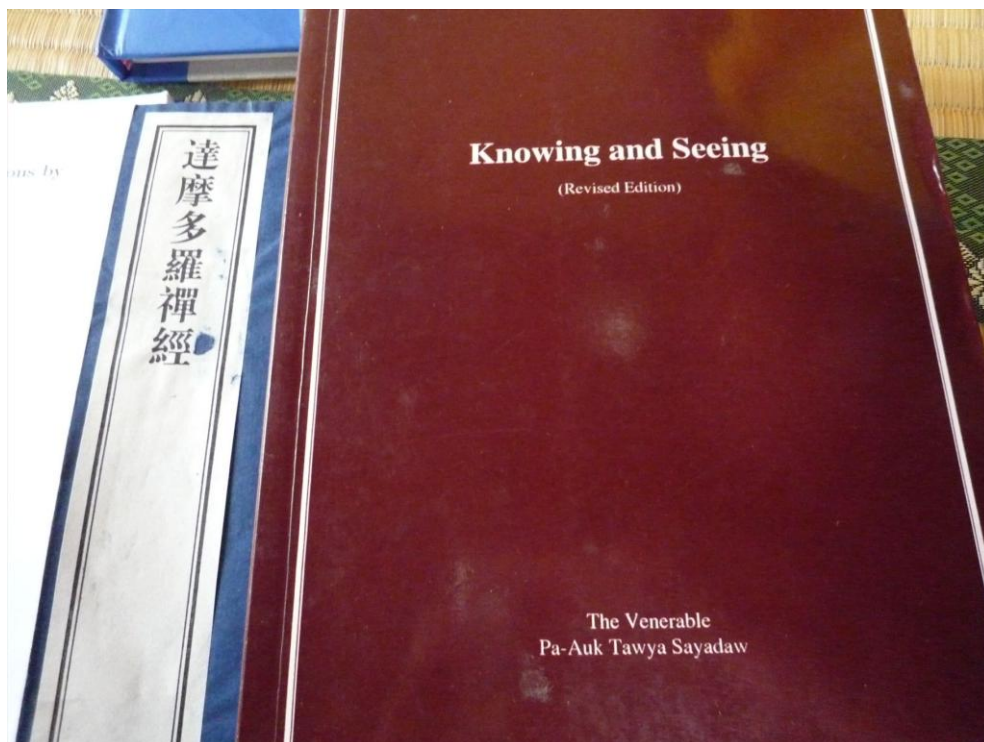
私もパオで行を全部やった後、「いやー私は、これは絶対に教えられない」と。「すぐこの衣を脱ごう」と思ったわけです。それは莫大の量の瞑想と、これをいかに噛み砕いて人に教えるかとなったら、「私にはできない」と。そのときに、本当にお釈迦様の気持ちが分かりました。それで、南伝では、そのとき天界に女神が現れて、それで止めたわけ、「どうか行かないでくれ」と、王様（梵天）が降りてきて言ったと。でも、瞑想している最中に天界から女神が、いつでもザーッと見ているわけ、守っているわけね。

そりゃあ私だって、その内容、昨日ちょっと話したでしょう？ 十二因縁の中の心の作用。一体これをどうして皆さんに見せるか？「いやー私はこれできない」と、「衣を脱ごう」と思ったけれど、ま、最初だけでもの報告であって、ま、そういうことですよ。難しいんですよ。

だから、そうやってしまえば、皆あきらめるから。でも、その後、たくさんの阿羅漢をつくって、すごい高德をしたわけですね。

まあ本当、ダンマヌパッサナー（法随観）がよく残っていたことと、私は思う。現代の科学者の頭でも理解できないくらい精巧にできていますからね。「心の振動波数がちゃんと1テラバイト」と、ちゃんとお釈迦様は知って、今、コンピュータがあるから1テラバイト、1兆の振動。それでコンピュータがあるから、結局プログラム、心の作用、それを「サンカーラ」（行、形成作用）といいます、「チエータシカ」（心所）。コンピュータが出現したから、私、説明しやすいけど、ない時代に一体どうして教えていったかと、瞑想しかないわけですね。本を書いたら、もう教えられないと。確かにそのとおり、観せるしかないわけ、これは何のことって、観たら分かるから。

だから、パオ・セヤドーが「観ることは知ることである」と。「観」しかないわけですよ。本当に私は「あー、これ終わってから万々歳、これ（衣）を脱いで在家に戻って、好き放題しよう」と思ったら、いまだにこうなのです、それどころか、あっちやら、こっちやらとの、この11年間はよく私の体がぶっ倒れないことでした。この間、1回でも病気したら全部ご破算というハードスケジュールで、今の話のように、この話がまあ山ほどまだまだ続くのですよ。だから話すこともできないでしょう？ 今これだけでもびっくりするくらいだから。今日は軽く、このお話して質問を受けようと思ったけれど（笑）、ま、そういうことでよいでしょうか。



水源禅師が将来された『達摩多羅禅経』と
パオ・セヤドー著『Knowing and Seeing』

パーチェカ仏陀とは

【参加者】

説法を、教えられない仏陀？

【水源師】

パーチェカ仏陀（縁覚、独覚、辟支仏）。それは全部、分かるわけです。でも、解析して教えることができないわけ。「これはあれ、これはあれ」と。でも、法としては全部、分かって体得しているわけです。

【参加者】

何が違うのですか？ 修行の仕方とか？ 資質の問題ですか？

【水源師】

いや、「声聞」といいますね、「声聞」が阿羅漢。その上の位が「パーチェカ仏陀」、それで、最高は「菩薩」、観音様とか、もう。だから、「辟支仏」（びやくしぶつ）とって、お釈迦様が生きていたときに「あのイシギリ（仙人掘山）の山には 500 の仏陀が住んでいる」という経典があるのですよ、そういうパーリ語で。それで、私の弟子が「どうして 500 の辟支仏は石に住めるのですか？」と。いやーそれは当然、住めますよ、私がチチカカ湖の龍宮の宮殿に行ったときに、門前に頭を付けたときに、ずーっと岩の奥からもう光り輝き、サーッと光が出てくるわけね。それで、その姿がちょうどギリシャ神話の白い衣を着てサーッと現れて、私にタッタターッとお告げするわけ。

それで、そういう方たちにとって、岩の中が空間なわけです。魚がこの空間を知らないように、魚は水が自分たちの空間なわけです。こういう辟支仏になったら、そこが自分の空間になるし、外にも出られるしと。生命も仏陀だから 1 劫 2 劫、生きるか、100 劫、生きるか、もう全然、違う生命体なわけ。それで、善いことはするわけ。善いことだけするわけ、一切、悪いことはしない。

それで「なぜ、辟支仏は悟り開いたから、涅槃に行かないか？」と。この説明がないわけですね。はい、お釈迦様に聞いてちょうだい（笑）。いや、これくらいでどうですか？ ま、今日もまた想像を絶する話ばかりで、経典にない話ばかりで、でも、こう響くでしょう？ これは全て私の体験から話しているから、聞いた話ではないのです。

現代の瞑想の危機的状況

【水源師】

分かっていませんね、韓国でも。これは大問題でありまして、台湾でも一緒です。今、非常に、本当に瞑想を教える方が世界的に非常に少なくなっているのです。ティク・ナット・

ハンという方は有名で『般若心経』を英文で訳して、相当な域に達していますけれども、結局 400 人、1000 人教えた場合には、もう瞑想は教えられません。せいぜいこれが限界です、30 人。10 人だったら易々といきます、15 人。瞑想というものは 1000 人、10000 人だったら、もう不可能です、ただ集いということで。

ということで、パオの場合は 1600 人、瞑想していますけれど、そこは朝から晩まで完全に無言です。それで、比丘だけは 400 人が、そこが特別な場所で、それも比丘も、いっぱいあちこちに分かれます。それで行が進めば、ほとんど 1 人、クティに入りますけれども、私は皆さんのために最後まで一緒に瞑想しました。というのは、本当の瞑想をそばで見なければ、ミャンマーの人でも分からないのですよ。実際に 4、5 時間、坐って、ずうっとジャーナ（禅定）に入っている姿を見なければ、噂ばかりで、ミャンマーのお坊さんでも、ほとんどジャーナに達しないし、クティに籠もる人はたくさんいますけれども、外国人でほとんど瞑想していません。本を読んだり、ただ何をしているか分かりませんが、それが現状です。

だから、今、日本では、瞑想において非常に危険な状態にあります。この 5 年、6 年ずうっと見ましたけれども、実際は、もう国が崩壊するときには、この現象が起こる今、寸前なのです。だから、ここに来て、今、正法に戻すために一生懸命やっていますけれども、これは外国からの仕掛けで、精神界を潰しに来ます。それが 100 年、200 年、400 年、500 年の計でやってきますから、一般の人は 10 年先のことを言えば全然、分からないでしょう？ 実際の世界の歴史は 500 年、1000 年待っても、打ち倒すのが、この現状です。だから、ローマ帝国は今、バチカンで 2000 年たっても、一つの問題を解決しない場合、2000 年でも待ちます。これが世界を動かす原動力ですから、それに打ち勝って自由になるには「仏法の法」しかありません。だから皆さんもよくがんばってくださいね。



アロートピエ仏陀とボロブドゥール

水源禪師法話集 39

(2014年10月12日 京都合宿)

2015年9月17日 発行

編集兼発行 一乗会